

特集 3 乳癌薬物療法 Up-To-Date



とおやま たつ や
遠山 竜也

名古屋市立大学大学院 医学研究科
乳腺外科学分野 主任教授

要旨

乳癌に対する薬物療法は、従来、エストロゲン受容体 (ER)、ヒト上皮増殖因子受容体2型 (HER2) の発現状況からサブタイプに分類され、そのサブタイプに応じた治療戦略が行われてきた。このサブタイプに“HER2 低発現”という新たな分類が加わり、それを標的とした抗体薬物複合体 (ADC) が使用されるようになった。さらに、サイクリン依存性キナーゼ (CDK) 4/6阻害薬, PARP阻害薬, 免疫チェックポイント阻害薬などの新しい薬剤が次々に導入され、乳癌に対する薬物療法は新たな時代を迎えた。本稿では、これらの新規薬剤について解説する。

キーワード

HER2低発現, 抗体薬物複合体, CDK4/6阻害薬, PARP阻害薬